

国の支援 新卒応援ハローワーク

新卒者支援施策の強化について

「新卒応援ハローワーク」が就職活動を続ける新卒者を応援します

厚生労働省職業安定局 派遣・有期労働対策部企画課 若年者雇用対策室

1 はじめに

今春卒業者の就職内定率は、大卒者が80・5%（2月1日現在）、高卒者が86・4%（1月末現在）となっており、過去最低となった前年よりは回復したものの、依然として厳しい状況が続いています（卒業時点での就職率は5月中旬公表予定）。

ここでは、厚生労働省が行っている、就職活動中の新卒・既卒の方への支援と、被災既卒者を採用する事業主の方への支援について説明します。詳しい内容については、お近くの都道府県労働局、ハローワークまたは新卒応援ハローワーク（<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/Sapof>）までお問い合わせください。

2 ハローワークにおける新卒者の就職支援の強化

「新卒応援ハローワーク」とは、就職活動中の学生・既卒者の皆様が利用しやすい専門のハローワークです。

平成22年9月24日に全都道府県に

設置し、平成24年4月1日現在、全国に57カ所あります。ハローワークの全国ネットワークを活用し、豊富な求人情報の提供・職業紹介・中小企業とのマッチング、就職活動に役立つ各種セミナー、担当者を決めての個別支援（定期的な求人情報の提供、応募先の選定や就職活動の進め方の相談、エントリーシートや履歴書などの作成相談、面接指導など）など、さまざまな支援メニューを揃えています。昨年度（23年4月～24年2月）は、新卒応援ハローワークを延べ約51万人の方が利用しています。中学・高校の生徒に対しては、全国のハローワークが学校と連携しながら、きめ細かな就職支援を行っています。

これらの新卒者の就職支援を専門に行っているのが、ジョブサポーターです。平成23年度当初には2,000人でしたが、補正予算等により拡充を図り、平成24年度には2,300人体制で支援を行っています。大学等での就職支援や企業での人事労務管理の経験者、キャリアカウンセラーの有資格者などが多数在籍しています。ジョブサポーターの支援により、平成23年度（23年4月～24年2月）には、約13万9千人の就職が決定しています。

このほか、大学等とハローワークが一体となった面接会の共催、大学等の就職支援担当者向けのメルマガの発行、新卒者に対する地域の中小企業PRのための、地元企業を活用した高校内企業説明会の実施などに取り組んでいます。

平成24年度は、既存の取り組みを更に強化します。これまで以上に新卒応援ハローワークと大学等との連携を強化し、大学のニーズに応じて、ジョブサポーターによる大学への出張相談を恒常化させ、また、卒業後も就職活動を続ける学生等に対しては、卒業前から新卒応援ハローワークに登録していた

だき、卒業後もジョブサポーターによるマンツーマン支援を徹底し、一人でも多くの新卒者が一日でも早く就職できるように努めていきます。また、大学生等と中堅・中小企業とのミスマッチを解消するため、卒業年次前から企業説明会を開催し、早期から中小企業への理解を深める取り組みなどを行います。

平成22年3月以降に大学等を卒業後、安定した就労の経験がない、被災された既卒者を対象とする新卒求人ハローワークに提出し、既卒者を正規雇用した事業主の方に対し、「3年以内既卒者（新卒扱い）採用拡大奨励金」を支給します。

3 被災既卒者の採用を検討する企業への支援

東日本大震災で被災された卒業後3年以内の既卒者を採用する事業主の方に、奨励金を支給しています。

●「3年以内既卒者トライアル雇用奨励金」

平成22年3月以降に大学等、高校、中学を卒業後、安定した就労の経験がない、被災された既卒者を、ハローワークの紹介で採用し、有期雇用（原則3カ月）の後に正規雇用に移行させた事業主の方に「3年以内既卒者トライアル雇用奨励金」を支給します。

△支給額▽
有期雇用期間…1人につき月額10万円（最大30万円）
正規雇用での雇い入れ…1人につき月60万円（雇い入れ3カ月定着後に支給）

●「3年以内既卒者（新卒扱い）採用拡大奨励金」
平成22年3月以降に大学等を卒業後、安定した就労の経験がない、被災された既卒者を対象とする新卒求人ハローワークに提出し、既卒者を正規雇用した事業主の方に対し、「3年以内既卒者（新卒扱い）採用拡大奨励金」を支給します。

△支給額▽
1人につき120万円（雇い入れから6カ月定着後）。1事業主10人限り

す。

東京新卒応援ハローワークにおける就職支援の取り組み

ジョブサポーターによるマンツーマンのきめ細かい支援



西新宿の高層ビル21階にある東京新卒応援ハローワークは、全国に50数所設置されている同ハローワークの中でも最も来所者が多い。主な対象は、大学・短大・専修学校などの卒業年次の学生と既卒3年以内の卒業生。多いと来所者が300名ほどの日もあり、個別相談に90分待ちのことも。

東京新卒応援ハローワーク

所在地 ●東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル21階

電話 ●03-5339-8609 (代)

開庁日時 ●月～金：10時～18時、土曜日 (第1・3土曜日のみ開庁)：10時～17時



川野辺哲夫室長



ジョブサポーター・北山四郎氏

「新宿に移転してから、来所される方はかなり増えました(2月に六本木から移転)。ジョブサポーターが60数名おり、マンツーマンで一貫して担当し、内定獲得まできめ細かく支援していきます」(川野辺哲夫室長)

就職活動がなかなかうまくいかずにここにやって来る学生の状況はさまざま。それぞれの段階に応じた支援を提供する。自分のやりたいこと、何ができるかわからないという場合は、一般職業適性検査(GATB)やVPI職業興味検査などのアセスメントを活用したりして自己分析。そこから応募先を絞り込んでいくための業界研究、職種研究、そして具体的なエントリーシート(ES)、面接といった部分まで、就職を目指して一対一で専門的な支援を無料で行う。

長期にわたって内定を得られず心理的に不安になり、心理カウンセリングを必要とする人のために「こころの相談コーナー」も用意されている。新卒応援ハローワークでは、学生にもつと中堅・中小企業にも目を向けて活動をすることを勧めている。大手企業ばかり受けてESすら通らずに落ち続け、へ

こんでしまっている学生が多いからだ。視野を広げ、中小企業の中で自分のやりたいことができる環境があると気づけば、選択肢を増やしてそちらに進むこともできる。気持ちの転換をすることで就職活動にも幅が出てくる。

そして、ここに継続して通う学生は、結果的にほとんど全員が就職を決めているという。「あきらめないで継続的に来ていて決まらないという学生は、私の知る限り一人もいません」(ジョブサポーター・北山四郎氏)

「内定の決まった学生から、後輩に向けてメッセージを残してもらっています。『だいたいみんなあきらめないことが肝心だ』と書いています。『あきらめずに頑張つてよかった』『必ず自分に合った会社は見つかるから、みんな頑張つて』と。また、彼らはここであきらめずに就職活動に取り組んで内定まで行き着いたわけで、それは自分の中の成功体験になるし、よく考えて突き詰めたうえで行き先を決めている。そういう学生は、社会に出てから逆境にあつても頑張れるし、簡単には辞めないのではないでしょう」(川野辺室長)

実際に利用している来所者の学生からは、新卒応援ハローワークはきめ細かな対応をしてくれ、精神的なサポートにもなるので、とても役に立っているという評価が聞けた。

大卒就職ジョブサポーターの話

ジョブサポーターの役割

ジョブサポーターによる個別相談は、基本的にマンツーマンの担当制です。そうでないといけない理由があります。まずは、実際に学生がどのように動いているかという状況を聞き取り、問題点・課題を発見して、対策を考える。そして毎回、次の予約をしてもらいます。なるべく1週間以上先にならないようにします。

履歴書の書き方がわからない、ESの自己PRの表現がうまくいかないという人もいますので、添削しての指導。それから希望職種、職種の理解と確認。志望理由を書く時に、「それがどんな業界か、どんな職種かわからない」では書けないので、理解が足りなければ業界研究・職種研究を促す。それで応募書類を整え、書類が通つたら連絡させて、模擬面接に進みます。

われわれジョブサポーターは、適性検査や面接対策などのセミナーの講師のほか、大学に赴いてのサポートもあり、個別相談のスケジュールはびっしりです。1回1時間が日に7人対応します。波もありますが、多い時は50人くらいを担当しています。

来所者の傾向と対応

学生が二極化しているように思いますが、今年は会社説明会の解禁が2カ月

遅くなりましたが、意識の高い学生は、

E.S.の添削に3年生の10月頃から来ていました。一方で、面接も通らない、就活がうまくいかなかった、一人でどうしていいかわからない、うまくいっている仲間には相談できない、という学生もいます。引きこもってしまい、どうしようと思っているうちに親にも「どうするの?」と言われる。

親が「大企業じゃないとダメ」ということもありますね。そういう場合は「親御さんはあなたのこと心配してるんだよ」と言いますが、それに加えて「ただ、『自分がやりたいことができる環境であるなら、会社は大きくないかもしれないけど、このまま就職も決まらないでいくよりは、とりあえず社会に出て働いてみる』と言ってみれば?」と話します。それは、世代間のギャップもあるだろうし、子どもと親御さんとの一つの闘いになるのかもしれない。でも、たいていはちゃんと親と話し合いをして解決しているようです。

■心がけてほしいこと

まずはカウンセリング、しっかりと話を聞いて気持ちを取り上げてあげる。学生たちも初めてここに来た時は、「ちゃんと親身になってくれるのか、自分のことを理解してくれるのか」と疑いをもっている。「来てよかった、次も来てみよう」と思ってもらいたいのです。スタッフ全員がそういう気持ちで、親身になって対応することを基

本にしています。

就活がうまくいかず、挫折感を抱いて元気がなさそうな人には、「来ている人はみんな同じだよ、大丈夫だよ」と。そして、来所する一人ひとりに、「自分は何ができるか、それぞれの問題点に対してどのようにしたらいいか」ということを考えます。

ここに来て、彼らは自分を見つめ直すことになりす。あこがれから大企業に行きたいと思っていた学生も、「何のために働くのか」を織り交ぜながら、「大企業じゃなくてもはいけない」ということはないよね」とカウンセリングしていくと、思い込みから解放され、考え方を変えていく。

工場のラインの仕事をすると言っていた学生が、営業職として採用されたケースもあります。自分では営業は無理だと思っていました。話を聞くとゲームが好きだ、と。今のゲームは相手の状況を瞬時に見極め、かけひきして適切に対応していく必要があつて、「相手が何を要求しているかを汲み取らなければならぬ要素は、営業でのセールスポイントになるよ」とアドバイスしたところ、それから前向きになりました。最後の1カ月は必死で、頻りに来所していて、最終的に営業で採用されました。

自分ももっているものを掘り下げれば、社会人基礎力として求められる能力のどこかにリンクしていく。それを探して気づかせる。

利用者(大学生)に聞く

東京新卒応援ハローワークを訪れていた大学4年生3人に話を聞いた。3人とも就職活動が続けながら卒業の時期を迎えた。

●Iさん

卒業後に薬学部入学を目指して受験勉強をしていたが断念、今年の2月から就活を始めた。来年度は卒業延期制度で在学しながら就活に臨む。利用して約1カ月。

——こちらに来たきっかけは。

大学のキャリアセンターに行った時に、「あなたは通常より就活を始めたのが遅いので、いろいろな人のアドバイスを聞いたほうがいい」と言われ、こちらを紹介されました。

事務職希望で、まだ説明会には10社ほどしか行けていません。営業職も考えています。今は2013年度卒の説明会・求人を見ています。

——こちらのサポートはいかがですか。

大学の周りの友達が卒業してしまうので、相談する相手がいなくなつて寂しいですが、ここに来て悩みや現状を相談できることで、精神的に安心できます。焦りが大きいですが、相談すると落ち着いて明日からまたやるという気になります。

自己分析は、自分と周りの人の思っていることが食い違うことがあって難しいですね。自分の強みというのをなかなかうまく表現できなくて苦労しています。

ここでは、個々の企業名を言っても、「この企業だったらこういふところをポイントに志望動機を書いたらいい」とか、「この会社は同業他社とここが違う」など、具体的なアドバイスをもらえるのが嬉しいです。

●Sさん

3年の9月から就活を開始。利用して約1カ月。4年の夏から冬にかけては卒論に専念した。

——こちらに来たきっかけは。

アルバイト仲間からこちらで就職が決まったという話を聞いたんです。アドバイスもきちんとしてくれて、親身に相談にのってくれるし、望んだところに決まった、と。これまでの就職活動の経緯を教えてください。

——

合同説明会の参加から始め、その後個別の会社説明会を60社前後回りました。その中から30社ほど選考に進み、1社最終面接まで行きましたが、結局まだ内定はもらえていません。

3月の震災で、企業から「選考が進められないので、しばらく間が空きます」という連絡が何度も来るようになりました。そのブランクが自分のモチベーションに影響したような気がします。

——悩みや迷っていることなどはありますか。

よく就活のマニュアル本に「こうすれば通る」などと書いてありますが、サポーターの方に聞くと違うと言われることもあり。サポーターのほうを信じますが、実際はどうしたらいいのか迷います。マニュアル本は鵜呑みにしてもいけないでしょうし、世の中に出回りにすぎているように思います。

また、よく就職サイトに派遣や契約社員募集も載せられていますが、それぞれの就業形態のメリット・デメリットや仕事の実態などが知りたいところです。それと、もう卒業してしまうので、今後既卒者の就活の進め方はどうしたらいいのか心配な面



最後は結局、あきらめさせないこと。「一生懸命やっているのは十分わかる、あきらめないでいこう、必ずあなたに合った会社が見つかるから」と元気づける。ここに来る人たちは、「就職したい、何とかしたいといけない」という気持ちもついていますから、必ず決まるんです。長くかかっている学生はいますが、あきらめなくて継続的に来る人は全員決まっています。

■新卒者の就職を応援する「5つのこと」

中には、自己表現が苦手で引つ込み思案の学生も見受けられます。そういう面で就職戦線を勝ち抜いていけな

かったのかもしれませんが、世の中バリバリの人ばかりではない。彼らにどうやってそれぞれの気つきを与えていくか、どうすれば前向きに考え、モチベーションを上げていけるか。時には厳しくも言いますが、来なくなる人もいます。そういう人ほど、後ろ向きになっていて、自分からなかなか次の予約を入れにくいんですね。そういう時に「おいでよ」と電話する。それを待っていたと感じることも多いです。

それと、面談の時に必ず宿題を出します。「興味のある求人をも3社探してきて。そして、なぜその会社に興味をもったかを話して。あなたが採用担当者になったとして、その会社を私に説明して」と。どんなことをやっている会社か、どんな業界なのか。まさにそれが企業研究であるわけですから、志望理由を書く時のベースになる。それをしっかりとやってくる学生は、スバツと決まります。

応募書類の書き方の場合でも、「志望理由、自己PR、学生時代に力を入れたこと、まずは箇条書きでいいから必ず書いてきてね」と言います。「表現は手伝うけど、あなたが就職活動するんだから、私がするわけじゃない」と。みんな書いてきますね。求人も探してやる。3社じゃなくて1社だとしても、それは褒めます。

私の役割は、「良き相談者」でしようかね。自分の子どもみたいな年代です。だから、父親かもしれないけど。

もあります。

大学のキャリアセンターも利用しましたか。

開始時から頻繁に利用していましたが、マンモス大学なので学生が多く、予約が取れなかったり、待ち時間が多かったりして、自分が使いたい時に使えない感じでした。

こちらのサポートはいかがですか。

アドバイスの確です。添削も「この言い方だとあなたのよさが伝わらないから、こういう言い方に変えたら？」と代替案を示しながらアドバイスしてくれる。面接もついでに助言していただいています。担当のサポーターが付いてくれるので、それだけで気持ちが違います。

●Hさん

3年の1月から就活を開始。利用して約2ヵ月。4年の夏から11月まで簿記検定の試験勉強をしていた。

こちらに来たきっかけは。

大学のキャリアセンターで勧められました。こちらの方がよくうちの大学にも来て、面接対策などで支援していただいていますので。

これまでの就職活動の経緯を教えてください。

営業職を希望していましたが、何社も落ち続けていました。震災の後に選考がストップしてしまい、その時に改めて自分は何をやりたいのか見つめ直し、貿易事務をやりたいと決めました。簿記の資格を取りたいと思い、夏休みから11月の検定試験まで勉強に集中しました。12月から就活を再開しましたが、今まで内定はもらっていません。——つらいこと、悩んでいることなどはありますか。

震災後何ヵ月か経ち、どんどんみんな決まっていく中で、自分は決まらないというのがつらかったです。でも、絶対貿易事務職に就きたいという気持ちは保っていました。

悩みとしては、企業がどういった人を受けたいのか、求人票を見ただけではわからないことが不安ですね。自分はいくら強みも持っているから採用してほしいと言っても、企業側でそういう人が欲しいわけではない、という場合は採用してもらえない。

また、私の場合、面接は何回やっても慣れなくていつも緊張してしまいます。言葉に詰まってしまうので、何とかしたいです。

大学のキャリアセンターも利用しましたか。

就職対策には力を入れている大学で、3年の4月から就活のセミナー、講習等が毎月ありました。職員、外部スタッフもかなりの体制でしたが、希望者が多くて予約が取りづらかったです。1月を過ぎると3年生が通っていて4年生の居場所がありませんでした。

こちらのサポートはいかがですか。

担当の方に付いてもらえるので、何でも相談できるし、アドバイスも的確で、精神的な面でも支えてもらっていると感じています。うまく言葉にできないところも汲み取ってくれて、それ以上のアドバイスをしてくれます。

ここにはみんなやる気があって来ているので、来るとやる気ももらえます。「一緒に活動している」と感じます。ここを利用して、内定を得た友人も多いんです。

(2012年3月22日)

新宿・東京新卒応援ハローワークで